

# ジャパンプラズ

NEWS LETTER

Japan Club : 1759 Sutter Street #203, San Francisco, CA 94115 • Tel: 415-931-9424 • www.jpclub.org • jc-sf@sbcglobal.net

## 3月度理事会報告

「会友」制度の制定、ニュースレター記事の持ち回り寄稿制、ジャパンプラズのフェイスブックへの登録、ニュースレターのカラー印刷化(限定月のみ)... などについて話し合う

**3月11日 東日本大震災から一年、改めて防災を考える日にしよう**

ジャパンプラズ3月度の理事会は3月10日(土)午後1時からジャパンプラズ事務所に於いて8名の理事が出席のもと開かれ以下の事項について話し合われました。

## 1)「ガレージセール」

今年も下記の通り開催いたします、不要な品々のご寄付と、お時間の許す方のお手伝いをお願いします。(下記に関連記事があります)

## 2)その他の議題

## ・「会友」制度の制定

長く会の為に尽力された方を「会友」として遇する制度、基本的には1)会費の免除 2)会の催し物へのご招待 3)ニュースレターの配送等をもって応える、選出は理事会で決める。(さらに詳しい事を今後検討し決める)

## ・ニュースレターの記事持ち回り寄稿の制度

会員の方々のニュースレターに対する興味を深める為に多くの方に「記事」を寄稿していただく、まず手始めに理事の中から始める(第一回目は中山理事です)内容は全く自由です(風紀良俗を乱さない限り)我もと思われる方はぜひご寄稿ください。

## ・ジャパンプラズのフェイスブックへの登録

若手会員獲得などを目的に新しく登録いたしました、既に何人かの方が加わりました、詳しくは浦田伸夫理事までお問い合わせ下さい。

## ・ニュースレターのカラー印刷化(ただし限定月のみ)

予算なども勘案して、内容によって年数回をカラー印刷化して会員に還元する。今迄に2回カラーで配布しましたがこれから年数回実施する事を検討する。

## ジャパンプラズ ガレージセール

日時: 5月26日(土曜日) 8:30 AM - 3:30 PM

場所: 2717 Trousdale Dr. Burlingame

本年もガレージセールを行う事になりました。クラブの目標である相互扶助とお互いの顔合わせにもなる集まりです。年中行事の中でこれが唯一の資金捻出行事です、何時もの行事に参加出来ない方には良い顔合わせと協力のチャンスです。それと同時に友達に何か一品出して頂けないかと電話連絡するのもクラブの良い宣伝になる事と思います。

スプリングクリーニングに出してしまわないうちに今一度ガレージ、クローゼットに不要な品物がありましたらお願い致します。品物は持ち運びの出来る「売れそうな物」は何でも結構です。出品される方は係員に電話されるか、当日にでもお持ちになり皆と一緒に時間を過ごされては如何ですか?

若し当日来られない方は北 哲也迄お電話を下さい 電話:650-714-5958

## 東日本大震災一周忌追悼式

2012年3月13日

日本総領事館主催の東日本大震災一周忌追悼式が本日サンフランシスコ市内プレジデオのゴールデンゲイトクラブに於いてベイエリア諸団体関係者約700名が招かれて開催され、ジャパンプラズから上野会長不在中に代わり筆者が代表して出席、以下その内容を会員の皆様にご報告申し上げます。

会場には天皇、皇后両陛下の被害地にお見舞いに赴かれた写真記録、そして瓦礫のなかで復興作業に献身されている作業員等の数々の写真が展示され、痛々しいなかにも頑張り、復興に奮闘されている人達には頭の下がる思いで見入っておりました。

始めに猪股総領事よりこの甚大な損害を被った被害地に対し当地の人達/団体に依る暖かい義援に深く感謝の意を述べられました。展示されていた記録に依りますと東日本大震災復興義援金の日本領事館経由は合計で\$1,968,977.89 (2012年3月8日現在 — 全額日本赤十字を通じて支払済)、そして日本赤十字義援金受け取り合計は\$39億ドル、内80%は災害地関係に支払済となっております。

災害直後援助活動に駆けつけた救助隊は米国海軍を始め中国、韓国、イスラエル等27カ国に及び国籍/人種を超えたこの救援活動に日本人は改めて心を打たれ人間の尊い“絆”を再確認した次第との事です。

大震災より一年経過した現在の被害地の復興は原発汚染に依る広範囲居住地退避等で中々捗々しく進まず、未だに30万人以上の被害者が仮設の避難所での生活を余儀なくされているのが実情との事ですが皆希望を捨てず“Spirit of Opportunity”(前向き精神)で復興に取り組んでいるとの事。

続いてカリフォルニア州議会の John A. Perez 議員が当地の公共団体、一般企業、更には個人団体が夫々協力して義援金を募り被害地の皆さんに少しでも役に立つ様努力して来た事を語り、日本とカリフォルニアの揺ぎない繋がりを強調しておりました。

その後オリンピックスケートゴールドメダリストの Kristi Yamaguchi がカリフォルニアとハワイの有志達と一緒に義援団体“Operation Aloha”を発足させ、東日本被害地に対する fund raising 活動を通じて得た義援金、援助物資を送り、関係者と共に直接被害地に赴き被害者を見舞ったと話されておりました。

日本人は昔から苦しみに耐えることは美徳とされてきましたが今回これほど悲惨な写真記録の数々を観てこの苦難の毎日を克服して生活している被害者及びそれを助ける為に一生懸命働き続けている救援活動者達の姿を見ると被害地から遠く離れて暮らしている我々にも何時同じ様な不遇が訪れないとも限らないと思う時改めて“心の準備”も含めて如何に災害対応準備が必要かを思い知らされた次第です。

大隅敏男副会長記

## 2012 ジャパンプラブに新しく入会された仲間です 新会員紹介

引き続き4月号ニュースレターに斎藤悦子さん、宇田川博文さんのお二人をご紹介します

### 安満 沙和子さん (あま さわこ)

独特で神秘的なリズムに乗って華麗に舞う安満沙和子さんのセクシーで素晴らしいベリーダンスに男性はもちろん女性の方々も感動し大喝采に終わった今年のジャパンプラブの新年会。このベリーダンスをエンターティメントに加える事は沖山泰彦理事の熱心な推薦があったからで興味本位に賛成した理事たちも終わってみれば沖山さんの見識に完全に脱帽でした。

その安満さん「在米日本人同士の広く深い繋がりを目的に活動するジャパンプラブに共鳴しました」とのコメントを付けてこのほど入会されました。

安満さんのベリーダンスの芸歴等は昨年12月号のニュースレターに簡単すぎるほどカンタンに掲載されていますがご本人から「当地で体験型の文化教室に興味がありますのでそんな活動をされている方の講演会」をとのご希望がありますがその前に、ジャパンプラブでは安満さんご自身とベリーダンスについての講演会をリクエストしたいのでご協力をお願いしたいと思います。

「格式のあるお寺で生まれ育たれたお嬢さんが芸事が好きな鹿児島女性とは言えなぜ異文化のしかもベリーダンスに魅せられプロになる迄修行されたのか、ベリーダンスの魅力また活動の内容等について語ってもらえるのを楽しみにしたいと思います。2000年アメリカに移住、現在 Fair Oaks にご主人と2人でお住まいです。

### 大原 源子さん (おおはら みなこ)

「企業も、商店もそれに日本人もすっかり少なくなり、加えて新しく日本から来る人も無く淋しくなってくるベイエリアの日本人、日系人社会、そんな中、永住日本人も新一世と言われる戦後移住の日系人も年ごとに高齢化が進み「お互いに助け合わない」と云う時代にふさわしい相互扶助を目的に活動するジャパンプラブに共鳴、私も出来るだけお役に立ちたいと入会しました」とジャパンプラブ入会理由を語る大原源子さん。

1970年、先に移民で当地に来ていたお義兄さんの呼び寄せで当地に移住するご主人と一緒にアメリカへ。サンマテオに店を構え二人良く働いたそうですが、この間に授かった2人のお子さんも立派に成長、独立され現在は40数年前の帰ってお二人で平和な日々をお過ごし様子。

その一方で源子さんは10年程前から郷里鹿児島に本部を置く日本舞踊「清乃本流」の米国責任者として師範として日本伝統芸能の普及に努めておられます。

明るく、気さくな人柄で誰からも親しまれている「鹿児島オコジョ」です。

### 再度、会費納入のお願い

2012年の継続会員の方に会費の納入のお願いです、新しい名簿作りの為に会費納入と同時に住所、電話番号、e-mail アドレス等の**変更**がありましたらお知らせください。

## リハビリ 日本から村井侑子さんのご寄稿

日本へ帰る引越し準備の最中に左のひざを痛め、以来、ずっと続いています。歩くには不自由なくとも、階段の上り下りなどは手摺りにつかまらないと心もとない状態です。せっかく日本へ帰国したのだから色々なところへも行きエンジョイしたいと思いい、せつせとリハビリに通っているところです。

国立病院での精密検査の後は近所の整形外科クリニックに通っていますが月に一回の注射、リハビリは週二回と云われているのですがあまりの混みようにリハビリは週に一回しか行っていません。アメリカのように全てを予約でやればいいのと思うのですが、国立病院など大病院の再来(再診)のほかは個人病院やクリニックではどこも予約制度がないようです。

病院やクリニックの待合室は老人のサロン化しているという話は前から聴いてはいましたが全くその通りで、特にリハビリなどは「緊急を要せず」の状態の人が来るのでいつも三十人位は入る待合室は一杯です。皆顔なじみ、待っている患者の殆どが高齢者ですが皆それなりにおしゃれして来ていて孫のこと、近所のうわさ、薬のことども話に花が咲いています。ここでも女の人が二十五人、男は五人位、男女ともおしゃべりがさかんです。

八時三十分開院、九時リハビリ開始なのですが、試しに九時きっちり行ってみたところ座る場所もなく、やむなく玄関で立って待っていました。第一陣に二十名ほど呼ばれて中に入り、二十分位して又次のグループという具合。リハビリ室はムチ打ち症の患者用の首のケンスイ器をはじめ、腰や背中ストレッチとマッサージ、私自身は足首にベルトをつけ一キロ半の重しを上げたり下げたりするのを十分、レーザー光線による患部にペンらしきものを当てる治療を十分というところでしょうか。治療そのものの時間はこのように短いのですが待つ時間の長いには困ります。月～土いつ行ってもすいていると思ったことはありません。たまたま午後の三時過ぎからはいづらかすいていました。

効果は有るのか無いのか未だに私にははっきりとはわかりませんが、月に一度の注射(ヒアルロンサン)のとき「続けることが大事」とドクターに言われるので行っているようなわけですが、これも長く続けるといいのでしょうか。ともかく三十人も四十人も午前中は入れ替わり待合室にいて話に花を咲かせている風景などアメリカでは見たこともなかったので面白い現象だな～と試してみています。

日本は長寿の国、国民みな<クオリティ・オブ・ライフ>が云われて久しいけれど、毎日の何時間を病院の待合室でおしゃべりの時間を過ごす。それもささやかな生活の楽しみと思うならつつましすぎると思わないでもない。

おわり